九州短期大学共創プラットフォーム

令和7年度

自己点検評価報告書

令和８年3月 31 日

はじめに

西九州大学短期大学部・長崎短期大学・長崎女子短期大学の3校は、令和6年度文部科学省（日本私立学校振興・共済事業団）「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」【メニュー2：複数大学等連携】（事業名：「Higher Education For All」短期大学の教育機能の共同化・高度化の取組み―短期大学の経営改革をめざす複数短期大学等による連携事業―）に採択され、本事業を推進してきました。

本自己点検評価報告書は、3校が協働して取り組んでいる「九州短期大学共創プラットフォーム」の構築を通じた経営改革の進捗と成果を総合的に確認し、令和7年度における取組状況を自己点検・評価することを目的として作成したものです。

九州短期大学共創プラットフォーム
統括委員会
西九州大学短期大学部
学長 福元 裕二
長崎短期大学
学長 安部 恵美子
長崎女子短期大学
学長 橋本 剛

本報告書について

本事業では、各年度において明確な目標を設定し、それに基づく実施計画を策定している。令和 7 年度の目標は「共創プラットフォームの運用開始と共通化を推進する。」であり、現在、共創プラットフォームの基盤構築から実施運用に向けて、作業を急ピッチで進めているところである。

また、令和 6 年度に提出した「進捗状況確認票」について、審査担当委員からは3校ともに「著しい問題点等は見受けられなかった」との評価を受けた。令和 7 年度についても、今後、同様に進捗状況の確認が行われる予定であり、さらに事業 4 年目（令和 9 年度）には中間評価が実施されることとなっている。

本報告書では、令和 7 年度の目標である共創プラットフォームの運用開始と共通化の進捗状況、および令和 8 年度からの学生受入れに向けて必要となる初動的な取り組みについて、自己点検と評価を行うものである。

令和6年度　　共創プラットフォームの基盤構築と共同活動を開始する。

令和7年度　　共創プラットフォームの運用開始と共通化を推進する。

令和8年度　　共創プラットフォーム（各校履修モデル）の学生受入れを開始する。

令和9年度　　教育・運営の高度化と持続可能な運営体制を確立する。

令和 10 年度　事業最終年度として、事業成果の評価と改善、継続的発展に向けた展開を進める。

推進委員会

西九州大学短期大学部	平田 孝治
西九州大学（西九州大学・短期大学部副学長）	上野 景三
長崎短期大学	中野 明人
長崎短期大学	岡崎 寛
長崎女子短期大学	橋本 剛
長崎女子短期大学	松島 完
長崎女子短期大学	髙井 達司

自己点検評価について

本報告書では、グループ全体計画書に示されている令和 7 年度計画に基づき、各短大・各部門が担当する取組の実施状況について自己点検および評価を行う。点検評価にあたっては、実施運営に必要となる具体的な実施計画（取組事項等）について、全体計画書に記載されている項目および達成目標（全体計画書抜粋）を基準として、現状を検証し評価を行うこととする。 なお、根拠資料等の詳細については、本報告書では掲載を割愛する。

全体計画書（抜粋）

(2)連携による機能の共同化・高度化に係る計画

(2－1)学校運営面における取組計画

ア. 事務機能の共同化

イ. 物品等の共同調達

ウ. 施設・設備の共同利用

エ. システムの共同運用

オ. FD・SD の共同実施

(2－2)教学面における取組計画

ア 連携した教育の提供

イ 教学管理体制

(3)連携事業による経営効率化への寄与

1. 物品やサービスの共同調達による経費削減

2. 施設設備の共同利用による設備投資の最適化

3. 教員・職員の相互交流と専門性の活用による人的リソースの有効活用と専門性の向上

達成目標

①経営効率化指標（ⅰ）	「人的コスト比率」	人的コスト削減率
①経営効率化指標（ⅱ）	「物品調達比率」	物品等調達削減率
①経営効率化指標（ⅲ）	「施設設備費比率」	施設設備費削減率
①経営効率化指標（ⅳ）	「費用対効果」	費用対効果向上率
②独自指標（定量指標ⅰ）	「教育成果の向上」	教育成果向上率
②独自指標（定量指標ⅱ）	「地域連携」	連携事業増加率
③独自指標（定性指標ⅰ）	「教育プログラムの充実度」	内部評価と外部評価の総合
③独自指標（定性指標ⅱ）	「地域社会への貢献度」	地域連携プロジェクトとフィードバック評価の総合

グループ全体計画書(抜粋)
令和７年度　目標
共創プラットフォームの運用開始と共通化を推進する。
実施計画
事務機能の統合・統一： 共通の事務管理システムあるいはプロセスについて統一化を進めていく。 オンライン授業の整備： 共有科目群のオンライン化・対面授業の計画を準備し、整備していく。 LMS の導入： 各校の学習管理システムとのリンク、学生情報の共有化と管理の効率化を進める。 共同調達の本格化： 共同調達の運用を最適化し、他の共同調達の拡充を進める。 共同 FD・SD の実施： 共同研修プログラムの実施を本格化し、教育の質向上を図る。 共同学生募集： 次年度からの学生受入れに向けた募集広報活動を実施する。 ・前年度の実施計画の継続充実とその他必要な取決めや実施を行い、共創プラットフォームの初期基盤整備を完成する。

統括委員会 自己点検	評価(S/A/B/C/D)
【総評】　B 令和８年度学生の受入れを第一の達成目標として、これまで各校・各部会において必要な準備を進めてきた。令和 8 年度の履修モデル学生募集においては、エントリー時点で共創プラットフォーム（PF）による学生把握を行わない方針としたため、年度内に履修学生数を把握することは困難であった。このため、令和 8 年度の対象学生には早期にインターカレッジカリキュラム（IC）の履修を積極的に勧奨し、履修者数の増加を図る必要がある。併せて、各部会間の連携を強化し、教育内容や運営体制に適切に反映させていくことが求められる。今後は、令和9年度学生募集広報の強化を必要とする。 事業活動全体としては、達成目標の実現に向けた準備は概ね順調に進んでいると評価できる。一方で、学内手続きや部会運営において、各校からの各種情報の集約が遅れることで、部会の進行に遅れが生じている点は課題である。また、達成目標の算定方法についても、早急に統一的な取り決めを行う必要がある。 さらに、外部参画を含め、共創 PF の基盤となる関係教職員のエンゲージメントをどのように高め、組織文化を醸成していくかは、今後の重要な検討課題である。個々の小さな実績の積み重ね（成功体験）が、最終的な事業成果の創出につながると考えられる。SD 研修等を通じて、事業の目的や必要性に対する理解と認識を共有し、関係者間の協働体制を一層強固なものとしていくことが求められる。	当年度計画の実施について S: 達成（100%） 目標をおよそ達成しており、期待以上の成果を得ている。 A: 達成（90%以上） 目標をおよそ達成している。 B: 概ね達成（70%以上） 目標を概ね達成しているが、一部に改善を必要とする。 C: 一部達成（50%以上） 目標を一部達成しているが、課題が残され改善が求められる。 D:未達成（50%未満） 早急な対応を必要とする。

西九州大学短期大学部（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件確認。 ☑ 推進委員会・各部会の計画推進 ☑ JC-Link 事務局の運営 ☑ 学内規程等の整備 ☑ 情報共有と実施運営の理解 ☑ R8 年度学生募集	昨年度に続き、初動として PF 事務局・推進委員が中心となり事業を牽引している。本学の次年度アクションプログラムに、本事業計画を組み込んだ。令和8年度学生受入れに係る学内規程等の整備、JC-Link 事務専用の Teams の導入、人的リソースに関してクロスアポイント制度を整備してきた。取組み事項はある程度達成したと考えるが、学内での理解、情報共有と実施運用は十分ではない。代表校としても本事業を主導していく責任がある。今後もスピード感をもって運営の効率化を図っていく必要がある。	A

長崎短期大学（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件確認。 ☑ 学生受け入れ開始に伴う環境整備。 ☐ 教職協働によるさらなる事業の推進。	・学生支援部会と地域連携部会の責任校として、進捗状況を確認しながら定期的に協議を重ね、両部会の運営を行っている。 ・両部会では、情報共有と実施運営の理解はされているが、その他の部会においては十分とはいえない。次年度は実務担当者の配置を変更し、Teams 等を活用しながら事業の共有とさらなる事業の推進を図っていく。 ・学内規程の見直しと「クロスアポイントメント制度に関する規程」を新規制定した。 ・パンフレット及び HP を活用した募集広報活動を行い、3 名の入学者を確保した。 ・「ブリッジルーム」を整備し、入学後の学びへ繋がるよう、対話を重視した入学前教育を実施している。	A

長崎女子短期大学（学内連携状況）	点検	評価
☑ 事業申請時の要件確認。 ☑ 推進委員会・各部会メンバーの確定。 ☑ 情報共有と実施運営の理解。 ☑ 学内委員会、学内部会等での取扱い。 ☑ 各部門での実務担当者の配置。 ☑ 学内規程等整備の検討への着手。	**・体制の整備:** 令和 6 年度の変則的な運営体制から回復し、現在は学内での情報共有を目的とした「共創プラットフォーム内部会議」を月 1 回原則開催する体制を確立した。 **・規程の整備:** 令和 7 年度の重点目標である学内規程の整備について、「クロスアポイントメント制度に関する規程」の策定を完了させた。また、既存の就業規則との整合性を確認し、制度運用に向けた法的基盤を整えた。 **・課題:** 教学面において、本学の提供科目（AI 活用・農林水産 6 次産業化・イベントプランニング等）の他短大学生の履修希望に対するオンデマンド対応等が継続検討となっている。	A

推進委員会（事務局含） 実施状況	点検	評価
☑ 事業申請時の要件確認。 ☑ 共創 PF の諸規定整備。 ☑ 統括委員会議題の整理、並びに調整会議の開催 ☑ 各部会の牽引、9 年度学生募集並びに人的コスト削減指標算定に向けた各部会運営の促進。 ☑ 外部ステークホルダーの参画（新規 2 社） ☑ 共有 IRer の各校訪問調査（3月17日） ☑ HP管理。 ☑ 事務用 Teams 導入、FD 研修会（2月 25 日）。 ☑ 部会別計画表の集約 ☐ 学習管理システム導入に係る調整。 ☐ 外部評価委員の選出	統括委員会・推進委員会を毎月定例化させた。優先度が高い事項として人的コスト削減の議論を促進した。教学管理部門に専用 PC を設置し、HP と事務用 Teams を導入、学習管理システムは最終調整段階である。学生募集広報部門として令和9年度学生募集の取組みを促進した。学習管理システム導入に係る調整は次年度早期の調整完了を予定する。	B

財務調整部会 実施状況	点検	評価
☑ 事業申請時の要件整備と今後の検討への着手。 ☑ 各種経営効率化指標の具体的検討への着手。 ☑ 拠出金、財務帳票の提案 ①経営効率化指標（ⅱ）の算定方法の取り決め。 ①経営効率化指標（ⅲ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。）	・3短大の分担金と共通経費の適正な運用を諮った。また、各部会の支出に伴う財務帳票の収支フロー作成を行い、システム上の支払い運用を図った。 ・企業、団体等からの参画の募集を行い、4企業より協賛金受け入れを行った。 ・効率化指標の具体的事項について検討中である。	A

教学システム部会 実施状況	点検	評価
☑ 管理部門 PC の設置と管理運営（代表校） ☐ 学習管理システム（JC-Gate）の各校導入調整（長崎短期大学完了） ☑ 各校教務担当者・諸規程整備 ☑ 共有科目群（CPP）一覧とコンセプト策定 ☑ 基幹科目の設定 ☑ 各校履修モデル（IC）の設定 ☐ IC 実施運用の調整 ☐ ②独自指標（定量指標ⅰ）の算定方法の取り決め。 ☐ ③独自指標（定性指標ⅰ）の算定方法の取り決め。	教学管理部門に専用 PC が設置された。JC-Gate の導入調整は遅れており、試験運転できず、教学管理には至っていない。CPP 一覧とコンセプト策定、基幹科目の設置、各校 IC を設定した。4月の IC 実施運用に向けた、各校間での調整は途上であり、次年度早期に調整を完了させる。達成目標は、実際に履修学生の受入れ後となり、この間に算定法を取り決めていく。	B

人的リソース部会　実施状況	点検	評価
☑ 3校推進員・部会メンバー等の共有化の検討。 ☑ 3校教職員情報（専門、担当等）の集約。 ☑ 基幹教員・クロスアポイントメント等の3校規程等の集約。 ☑ 財務調整部会との検討（アウトソーシング等）。 ☑ 教職員共有化の運用法の検討。 □ ①経営効率化指標（ｉ）の算定方法の取り決め。	**・情報集約の完了**:令和６年度の課題であった情報集約の遅れに対し、「JC-Link 共創人材データベース」を Google スプレッドシートで構築・運用開始し、3 校の教職員情報の集約を完了した。 **・制度設計の進捗**:基幹教員制度やクロスアポイントメント制度の活用を見据え、クロスアポイントメント規程を三校策定済みである。 **・経営効率化指標**:人的コスト削減の算出方法について、推進委員会で議論を重ね、統括委員会での結論を経て、人的リソース部会に差し戻されたことを受け、指標の再構築に取り組んでいる。算定方法については継続審議中である。	A

学生支援部会　実施状況	点検	評価
☑①経営効率化指標（ⅳ）の算定方法の取り決め。 （指標算定法は次年度より着手。） ☑各短大における学生支援体制の整備状況についての情報の共有	・企業・自治体向けのリーフレットを作成し、高校（生）のニーズ調査を実施・分析を行った。 ・経営効率化指標について協議を重ね、算定方法を策定した。 ・長崎短期大学下池洸史朗助教による合同 FDSD 研修会を実施した（「大学教育における合理的配慮－基本的理解とわが校の取り組み－」）。 ・各短大の学生支援体制について情報交換を行った。長崎短期大学が実施した入学前教育の情報を共有し、次年度の FDSD 研修会で報告予定である。	A

地域連携部会　実施状況	点検	評価
☑②独自指標（定量指標ⅱ）の算定方法に関する取り決め。 ☑③独自指標（定性指標ｉ）の算定方法に関する取り決め。 □③独自指標（定性指標ⅱ）の算定方法に関する取り決め。 □具体的な指標算定法、連携先からの評価方法に関する取り決め。 ☑すでに決定している、長崎短期大学主催「異文化交流パーティ」の案内	・次年度に向けて、「異文化交流パーティ」（7 月、長崎短期大学主催）に、西九州大学短期大学部、長崎女子短期大学から学生や教職員が参加した。 ・独自指標の算定方法のため、連携先企業・自治体を各校 1 か所以上選定した。 （西九州大学短期大学部） 地域連携先：小城市	B

	企業連携先：（株）HONZAN （長崎女子短期大学） 地域連携先：愛宕小学校区まちづくり協議会 企業連携先：株式会社デザイン・スーパーマーケット （長崎短期大学） 地域連携先：相浦地区自治協議会 企業連携先：協和商工株式会社 ・各校の地域連携活動を集約し、3 校での交流が可能な地域連携活動を各校 1 つ提供し次年度実施することを確認した。 ・連携先企業・自治体による地域活動の評価方法について、次年度検討・取り決めを行う。 ・学生支援部会と協力し、リーフレットを作成した。 ・令和 8 年 4 月長崎短期大学開催行事「日韓交流会」、7 月長崎短期大学主催行事「異文化交流パーティ」を地域連携活動として 3 校に案内した。	

（参考） 令和８年３月25日 統括委員会 議題（資料抜粋）

1.審議事項 ：
(1) 前回議事録の確認について
(2) 令和7年度自己点検評価について（進捗状況）
　1.全体計画書・申請時要件等の確認
　2.推進委員会・部会（担当校）の進捗状況と今後の課題等について
　3.統括委員会総括
(3) 令和7年度 SWOT 分析について（進捗状況）
(4) 経営効率化指標（iv）算定方法について
　（学生一人当たりの募集経費算出表について）
(5) 共創 PF 委員会・部会メーリング一覧2026について
(6) 令和8年度の委員会開催予定について
(7) その他

2.報告事項 ：
(1) 令和6年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援の
　進捗状況に対するフォローアップコメントについて
(2) 財務調整部会 （西九短）
(3) 教学システム部会（西九短）
(4) 人的リソース部会（長女短）
(5) 地域連携部会（長短）
(6) 学生支援部会（長短）
(7) その他

3.その他 ：
・外部評価委員について
・令和8年度各部会事業計画（予算案を含む）について

（参考） 令和7年2月12日 統括委員会 議題（資料抜粋）

1.初動について
2.プラットフォーム名称の確定について
　本事業で取り扱う用語の統一
3.共同実施事項について
　3-① 提出書類等について
　3-② 計画書の記載事項について（年次計画・実施内容等）
　3-③ 共同出資の予算按分について（システム、リーフレットほか）
　3-④ 部会等の実施事項・計画について
　【推進委員会】
　　1.システム設計の着手、学び研（桑木氏）への相談
　　2.共創 PF 管理システムの構築（管理部門、設備等の設置）、本部に管理部門を設置する。
　【財務調整部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（ii）物品等調達削減
　　経営効率化指標（iii）施設設備費削減
　　1.事務・教学の経営改革効果に係る推進事項について、具体的に進めて行く。
　【人的リソース部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（ i ）人的コスト削減
　　1.各担当者の確定、1/4 基幹教員等の検討、アウトソーシングの検討、インセンティブ支給の検討
　　　各校教職員リスト・関連規程等の集約、部会メンバー一覧表（メーリングリスト）の作成
　【教学システム部会】
　　計画書内（達成目標）
　　独自指標（定量指標ｉ）教育成果向上
　　独自指標（定性指標ｉ）教育プログラムの充実度 ※学生自己評価
　　1.提供科目（活動含）の候補確定（一覧作成）、インターカレッジカリキュラム基幹科目の設定
　　2.各校での履修モデル案の作成、3校共通事項、用語の統一
　【学生支援部会】
　　計画書内（達成目標）
　　経営効率化指標（iv）費用対効果
　　1.指導支援について、実施内容、各学内体制との関係ほか（共通事項）
　　2.R6年度中に予告リーフレット作成（学生募集向け）、リーフレット作成（6月からの募集を目標）
　　3.各校での入試案の作成（共通事項、PF 共通募集要項）、財務調整部会と協同、共同学生募集の実施
　　4.アンケート調査の実施分析について
　【地域連携部会】
　　計画書内（達成目標）
　　独自指標（定量指標ii）連携事業
　　独自指標（定性指標ｉ）教育プログラムの充実度※外部評価
　　独自指標（定性指標ii）地域社会への貢献度（教学システム部会）
　　1.予告リーフレット作成（ステークホルダー向け）※、リーフレット作成の着手ほか
　　2.ステークホルダー（産学官民金言）連携の推進について（先は地方創生 2.0 への接続）
　　3. ステークホルダー向け募集について
　【事務局】（推進委員会）
　　1. プレスリリース（キックオフ）＆予告リーフレット※、（至急要件につき事後報告）
　　2.個人情報の取り扱いについて原案作成
　　3.各校の申請書類等について（共創プラットフォームに係る内容の統一性）
4.その他
　4-① HP 等の作成について
　4-② 短期大学コンソーシアム九州その他との関係性について
　・短大コンソ事業
　・QSP事業
　・大学コンソ佐賀事業

九州短期大学共創プラットフォーム

令和７年度

自己点検評価報告書

令和８年3月31日

統括委員会

西九州大学短期大学部	学長 福元 裕二
長崎短期大学	学長 安部 恵美子
長崎女子短期大学	学長 橋本 剛

推進委員会

西九州大学短期大学部	平田 孝治
西九州大学（西九州大学・短期大学部副学長）	上野 景三
長崎短期大学	中野 明人
長崎短期大学	岡﨑 寛
長崎女子短期大学	橋本 剛
長崎女子短期大学	松島 完
長崎女子短期大学	髙井 達司
学びと成長しくみデザイン研究所	桑木 康宏

財務調整部会・人的リソース部会・教学システム部会・
学生支援部会・地域連携部会・事務局

西九州大学短期大学部

平田孝治・武富和美・春原淑雄・竹森裕高・牛丸和人・
田中知恵・川邊浩史・西岡征子・大石妙子・上田幸弘・
古賀達彦・本田治・田中謙一郎・中村妙美

長崎短期大学

中野明人・牟田美信・西田江里・新井浩之・清水英紀・
小玉智章・中村明夫・李載宇・岡﨑寛・小林友美子・
勝本健太・田栗智之・岸川綾

長崎女子短期大学

橋本剛・松島完・古賀克彦・船勢肇・木須裕也・
髙井達司・森口和美・林田翔太郎

学びと成長しくみデザイン研究所

桑木康宏